

地域公共交通担当者となった皆さんに理解 してもらいたいこと～地域公共交通入門～

NPO法人まちづくり支援センター代表理事 為国 孝敏



村民が一体となって創り育てている
「むらバス」:北海道赤井川村

博士(工学) 総務省地域力創造アドバイザー
国土交通省関東運輸局地域公共交通マイスター(初代)

1959年北海道網走郡津別町生まれ。北見柏陽高校、日本大学理工学部交通工学科卒業、1983年日本大学大学院理工学研究科(交通土木工学専攻)修了。1995年博士(工学)の学位取得(日本大学) 社団法人土木学会、栃木県内の大学教授を経て、2006年10月にまちづくりNPO(足利市)を主宰。栃木県足利市在住。全国各地で、地域公共交通、地域ブランド・シティプロモーション、観光やまちなか活性化、都市計画等のまちづくり活動に関する企画・計画づくりのコーディネート、人材育成・研修・創業塾の講師や、各種の講演など、幅広く実践活動に携わる。



地域公共交通に関する主な活動実績(R8年度)

【地域公共交通会議・協議会への参加】

【委員】千葉県香取市(会長)、茨城県桜川市(副会長)、稲敷市(副会長)、千葉県南房総・館山地域、北海道津別町

【アドバイザー】群馬県館林市外四町、栃木県栃木市、宮城県山元町、北海道オホーツク総合振興局、釧路町、雄武町、鷹栖町、遠軽地区(遠軽町、湧別町、佐呂間町)、清里町、奥尻町、森町、洞爺湖町、蘭越町、豊浦町、豊富町、赤井川村

【座長】北海道運輸局第三者評価委員会

【地域公共交通計画等の策定支援】

【地域公共交通計画】作成指導・香取市、桜川市、稲敷市、山元町、釧路町、豊富町

作成業務・遠軽地区(遠軽町、湧別町、佐呂間町)、清里町、豊浦町、雄武町、奥尻町、木古内町、蘭越町、由仁町、津別町、中標津町、乙部町、北斗市、森町、知内町、洞爺湖町、**寿都町**、**豊富町**、**黒松内町**

【協働トライアル(広域計画)】作成指導・群馬県館林都市圏、千葉県南房総・館山地域、北海道オホーツク総合振興局

【利便増進実施計画】採択・宮城県山元町、北海道中標津町、奥尻町、**申請準備中・雄武町、豊富町**

【公共交通アドバイザー業務の受託】

館林市外四町、桜川市、稲敷市、山元町、乙部町、**森町**、洞爺湖町、津別町、中標津町、**奥尻町**、木古内町、蘭越町、**豊富町**、由仁町、遠軽地区、雄武町、**寿都町**、**豊富町**、**黒松内町**、**赤井川村**、オホーツク総合振興局、清里町、知内町

【共創・MaaS、モビリティ人材育成、交通空白解消事業】千葉県香取市、北海道洞爺湖町、奥尻町、鷹栖町、**蘭越町**

今回の研修では、地域公共交通担当となって間もない方、地域公共交通に関する基礎的な知識を身につけたい方、地域公共交通施策の推進にお悩みの方に、地域公共交通の見方、考え方、取り組み方等をお伝えします

地域公共交通の基本的な認識

- 人の移動が交通である ⇒生活、文化、経済を育み、豊かにするインフラと認識
- 人口減少でも足が必要な住民はいる ⇒運転免許を持たない人は成人の10%以下
- 取り組みに正解(模範解答)は無い ⇒交通は生活のインフラなので、常に変化する
- まちづくりとしての移動支援である ⇒他の施策と連携させることで議会や財政当局などに説明しやすくなる
- 住民等の要望に全て答えることはしない ⇒公共交通は個人交通ではない
- 交通システムにとらわれない ⇒先進事例に飛びつかない。先行事例のプロセスに飛びつく。新しい取り組みには特に冷静に。
- 鉄道やバスだけが公共交通ではない ⇒地域公共交通は多種多様な手段が対象
- 如何に財源を押さえて、利用者へのサービス水準をあげるか ⇒当事者間でまずは60%の満足を目指す

それぞれ自治体ごとに置かれている条件や環境が異なりますので、まずは自分たちの地域を冷静かつ客観的にみてみましょう。

交通施策から始める、と考えるのではなく、まちづくりの視点から必要な人に必要なものを提供するには、と考える方が始めやすい、理解しやすいと思います

実務経験を通して感じていること～かなり泥臭いです（苦笑）

自治体の地域公共交通担当者がおかれている主な課題として
（自治体のおかれている状況によっても異なりますが）

【多くの自治体】

- 課題としての優先順位が低い、兼務が多く手が回らない、何をしたらよいか分からない等
- そのため、交通事業者にお任せ、手を付けずに現状維持で終始している
- データを整理していないので、議会からの質問にどう答えたらよいか分からない

【問題意識を持った自治体】

- 問題意識は理解したが何から手を付けて良いか分からない、とりあえず計画づくりをコンサルに任せる、やっている感だけは持っている

【中核都市規模の自治体】

- 専門部署もあり、担当者はそれなりの知識を習得しているが、交通システムを中心に施策を推進する傾向がある
- 市内の交通事業者の力が強いため、言いなりに陥りやすい
- 周辺自治体からの広域路線の維持までサポートしないといけないのだろうか？

地域公共交通担当者として冷静にかつ客観的に取り組むためには・・・

新たに地域公共交通の担当者となった皆さんへ

その1 何から始めるか～まず概況を理解しましょう

地域公共交通として何があるか～移動手段を理解する

- 鉄道
- バス(都市間バス、路線バス、コミュニティバス、デマンド(予約型)バス)
- ハイヤー・タクシー
- その他(福祉輸送、スクールバス(国公立含めた学校送迎)、企業送迎バス、病院送迎バス等)

自家用車利用にも着目する



移動手段毎にどれくらいのサービスが提供されているか～費用も含めて理解する

- 運行ダイヤや接続状況、停留所の場所
- 予約の手間や待ち時間
- その他(運行主体か？利用者主体か？)

誰が主に利用しているか、利用目的は～必要な人は誰かを理解する

- 通勤: 定期的・不定期的な勤労者(通所作業所等の福祉施設も含めて)
- 通学: 小中高生(学校・支援学校・幼稚園関係、スクールバスも含めて)
- 買い物: 地域によっては主に高齢者(近隣も含めた商業施設や商店)
- 通院: 地域によっては主に高齢者(近隣も含めた総合病院やクリニック)
- 観光・行楽: 住民や来訪者(季節や時間帯別に不定期的)

基本は自家用車を日常的に利用しない人



皆さんの生活圏移動を支えるのが地域公共交通と認識しましょう

新たに地域公共交通の担当者となった皆さんへ

その2 住民の移動を支える施策を理解しましょう

地域の交通に係る施策を理解する

- 交通計画の策定状況(地域公共交通計画、広域の計画等)
- 移動手段への運賃補助(定期券、運賃助成、タクシー助成券、割引制度等)
- 他の行政施策と連動したもの(例:高校存続のための通学補助等)



福祉に係る施策を理解する

- 福祉タクシー、移送サービス、買物支援バス、通院移動補助等
 - 福祉有償運送
 - 介護サービス
- 一人での移動が難しい、生活が厳しい等、交通施策との違いを認識する

教育に係る施策を理解する

- 学校統廃合とスクールバスの運行
- 部活送迎、行事送迎

まちづくりや観光施策を理解する

- 総合計画等での人の移動(交通)の位置付け
- 季節による観光地送迎やイベント送迎



奥尻町貨客混載
しまねこワゴン
(ヤマト運輸)

地域公共交通は、まちづくりを支えるものであるため、各施策との調整が必要です。担当者には実質、地域の司令塔の役割が求められます。

新たに地域公共交通の担当者となった皆さんへ

その3 皆さんのまちの地域公共交通は、どういう状況にありますか？

皆さんのまちの地域公共交通への取り組み状況での課題：

- ① 地域公共交通について、考えたこともない
- ② 問題意識はあっても具体的な取り組みになっていない
- ③ 計画の策定を必要とは思っていない
- ④ 計画策定を意識はしているものの、何をどのようにすればよいか・・・

皆さんのまちの住民意識の状況での課題：

- ① 自家用車利用がほとんどなので、他人事になっている
- ② 高齢化が進んでおり、移動の足の要望が多岐に亘っている
- ③ 学校統廃合に伴うスクールバスの運行は当然のことになっている
- ④ 何でも行政がやるものと思われる・・・

皆さんのまちの交通の担い手の状況での課題：

- ① 交通事業者がいない
- ② 交通事業者はいるが、体力がない。積極的でない。行政不信
- ③ 交通事業者と行政の目的意識・情報共有が図られていない・・・

策定された計画や普段のイメージに固執することなく、改めて一つ一つ、冷静に、多方面から課題を整理することから始めてみてはいかがでしょうか！

次のスライドから、具体的な取り組み方について講義します

自分たちの地域を良く知るために、次のようなことを調べてみましょう！
～何からどのように始めるか（振り返る場合でも）～

1. ターゲットを絞り込む

- ① 地域公共交通は誰が必要としているのか？⇒自家用車を運転できない人
- ② 地域の状況をよく知る⇒必要とする人は、どこに、どれだけいて（分布）、どこに行きたいのか（移動の動向・意向、まちの特性・性格）、何のために（移動目的）、どれくらい（移動頻度）
- ③ 調査の仕方を考える⇒お金をかけずに、今あるもの（人）を活用する

2. 地域ネットワークの状況を考える～出発地から目的地まで

- ① 移動するということは何らかの目的があつてのもの
- ② 生活圏という考え方を意識する～行政域ではなく
- ③ 既存の移動ネットワークを理解する
- ④ 移動手段の形態は気にしない

3. 地域内で自家用車ではない移動資源の状況を考える

- ① 地域内で自家用車以外の移動資源を探してみる（行政、民間を問わず）
- ② 移動資源ごとに性格が異なることを理解する
- ③ 活用可能性を検討する（全てが使えるわけではない。使える条件を探す）

実効性のある具体的な取り組みを推進するためには、ターゲットの絞り込みが重要です！

自分たちの地域を良く知るために、次のようなことを調べてみましょう！
～何からどのように始めるか（振り返る場合でも）～

4. 地域内の交通事業者、移動支援事業者等の状況を考えてみる

- ① 交通事業者：鉄道、都市間バス、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通、タクシー等
- ② 貸切に関わる事業者：観光、企業送迎、その他
- ③ 福祉に関わる事業者：福祉有償運送、移送サービス、デイサービス等
- ④ 教育に関わる事業者：スクールバス、その他
- ⑤ 事業者がいない場合は、それに代わる活用や協働を考えてみる

5. 移動に関わる公的資金・負担・補助・助成等、財政の状況を考えてみる(ハード・ソフトとも)

- ① 公共交通の確保・維持に関わるもの：赤字補填・負担分担金、自家用輸送ほか
- ② 福祉に関わるもの：バス券・タクシー券、免許返納対策、
- ③ 教育に関わるもの：スクールバス、通学補助、その他

6. 目標値や評価項目について考えてみる

- ① 数値目標を設定する場合は、定量的評価だけではなく、定性的な評価を数値化することもイメージする
- ② 短期、中長期など、時間軸を意識する
- ③ 交通は生活のインフラであるので、評価は毎年行うことを想定する

自分たちの地域を良く知るために、次のようなことを調べてみましょう！
～何からどのように始めるか（振り返る場合でも）～

7. 計画期間と推進体制、PDCAを考えてみる

- ① 計画期間内で手掛けられる取り組みを想定する
- ② 現実的な推進体制を想定する（法定協議会と庁内組織、住民団体、事業者等）
- ③ PDCA⇒法定協議会の活用（ガバナンス強化を意識）
- ④ 国庫補助や道庁補助などの動向を考える

8. 観光二次交通の扱いを考えてみる

- ① 観光関係部署との情報共有を図る
- ② 地域の状況を見て短期、中長期を判断する⇒まずは生活交通
- ③ 観光行動を理解し、自治体単独ではなく、広域連携を視野にする

9. 先進事例・先行事例について考えてみる

- ① 始めにありきではなく、まずはわが町の課題設定から考える
- ② 交通システムに着目するのではなく、取り組みのプロセスに着目する

10. 住民、事業者、企業、議会、庁内等の理解について考えてみる

- ① 意識啓発のためには、まずは情報提供・共有から
- ② ボタンの掛け違いに注意
- ③ 100%はあり得ない、前に進むことを意識してトライアンドエラーで

地域公共交通の担当者としての向き合い方を理解しましょう

住民や利用者に対して

- ・ 誠実に話を聞くようにする。特に利用者からの意見は大切に
- ・ 住民の意見は、あるに越したことは無い(保険)として言われることを冷静にみる
- ・ 住民の意向・行動を忖度する必要はない(お金がかかる施策なので)

議会に対して

- ・ 「みんなが言っている」との意見には、具体的に誰がを確認する
- ・ 可能な限り客観的なデータで説明する(理事者に対しても)
- ・ 地域公共交通は儲からないので、行政が関わる必要性を冷静に説明する

交通事業者に対して

- ・ 地域貢献よりもコストパフォーマンスを重視する傾向があるので、無理に頼まない
- ・ 減便・廃止については事業者からは言い出しにくいことを理解する
- ・ 小さな自治体のハイヤー会社では、タクシー乗用(ハイヤー)の売り上げは少ないが、事業者としてはこだわる
- ・ 地元のハイヤー会社は体力が弱いところが多いので、一緒に事業に取り組むことで前向きになれるような、トレードオフを含めた協力体制づくりに知恵を絞る
- ・ 最後は、行政が主体的にやらざるを得ないことを覚悟する

庁内及び関係機関に対して

- ・ 庁内部署との情報共有に努め、お互いを理解し合う
- ・ 地元の公的な企業体とは、一緒にまちづくりを進めることを共有する。お互いに汗をかく
- ・ 生活圏の広域連携は、道庁や振興局と一緒に進められるように共有する

判断に迷う場面で大切にしたい視点・考え方を理解しましょう

- 全てが上手くいく訳が無いことを理解する
- とはいえ後ろ向きにならずに、常に前向きな気持ちで取り組む
- 誰のための取り組みなのかをぶれずにいる～感情に左右されない
- 利害関係者が多いので、日常から客観的に冷静に全体を眺める努力をする
- 1人で抱えずに、1人で判断せずに、常にチームで、もしくは複数の理解者との議論を通して判断する
- そのためには、日常から情報共有することに努める
- 専門的な点で迷う時は、北海道運輸局、運輸支局や信頼できるコンサルタント、もしくは専門家を使う（頼るのではなく自分で考えて使う）

北海道運輸局、運輸支局は頼りになるので、何でも相談して下さい(笑)

大切なのは、

- 地域の皆さんの幸せづくりを意識すること、地域経済の活性化を推進すること
- 地域の活力づくりに貢献すること
- 魅力的な地域づくりの下支え（必須）をすること
- 志は高く、目標も高く、ただし取り組みはあせらず一歩ずつ確実に

人間力が磨かれる担当部署ですので、

力まずに泥臭くみんなで高め合っていきましょう！

余談：計画づくりで自治体担当者から良く聞く話、よくある話

計画の策定・見直し・アップデートを進めることは理解しているが・・・

- ・ よく分からないが与えられた業務なので上手にこなしたい
- ・ 人手が足りない、仕事が忙しいので地域公共交通についてモチベーションが湧かない
- ・ 何から始めて良いか分からないので、とりあえず情報収集や勉強だけはしておく
- ・ 計画は作成してあるが、現状の交通体系に手を付けるのは手間がかかる、計画推進も検討のまま、議会さえ乗り越えられれば・・・

そこでどう考えているか・・・

- ・ 計画の見直し、アップデートは、作成の手引きがあるのでそれに合わせればよい
- ・ 隣の自治体を参考にして、丸投げと思われぬように、コンサルに外注する
- ・ 現状の交通体系は手を付けず、国が出している作成の手引やモデルアーキテクチャー（標準設計）に沿った計画になれば良い
- ・ 首長が新しもの好きなので、営業に来たITやシステム業者に任せて、新しい交通システムを導入する
- ・ 地域公共交通（地域の移動）に係る財源までは考える余裕もないので・・・

**自治体が置かれている状況によっては、必ずしも間違いとは言えませんが・・・
少なくとも、しっかりと地域公共交通に問題意識を持ていただきたいと思います**

**このままではまずいと理解されている皆さん、時代を見据えながら、
地域公共交通について、今までの視点や発想を変えてみましょう！**

余談：先進的な技術の活用に向けて、心がけておくことはなんでしょうか？

近年、生活の足の確保に向け、先進的な技術（自動運転、AI、MaaS、・・・）が開発され、各地で導入や実証実験が進んでいます。

が、導入した全ての地域で先進的な技術が成功しているとは言えません。
皆さんの自治体で本当に先進的な技術が必要なのか、をしっかりと自治体の公共交通担当者として、考えることが重要です。



【やってはいけないこと】

- ・ 隣町などの周辺自治体で導入していて、なんとなくカッコいいから、導入してみたい。
- ・ 首長に言われたから、導入してみたい。
- ・ 先進的な技術を導入すると、議会や住民に喜ばれるから、導入してみたい。
- ・ 大手コンサル・ITシステム会社から実証実験等の依頼があり、導入してみたい。

補助金ビジネスには引っかけられないように(笑)

などなど・・・

導入した全ての地域で先進的な技術が成功しているとは言えません！

【考えてほしいこと】

- ・ 誰のために、その技術を活用するのでしょうか。そして、その人は、その技術を活用できるのでしょうか。
- ・ 導入しようとしている地域で、どの程度の人が利用するのでしょうか。
- ・ 先進的な技術を活用することで、公共交通の利便性・効率性は向上するのでしょうか。

先進的な技術は、まだまだ導入に多額の経費を要します。
その経費に見合った、導入効果が得られるのか、を考えてください。

**信頼できるコンサルタント等の相談相手を見つけ、
相談した上で、導入可否を検討して下さい！**

ご静聴ありがとうございました！



まずもって、オンラインを含め、研修に参加されている皆さんに感謝です。

【スペシャルサンクス】

常にチャレンジングな機会を提供し続けて下さる北海道運輸局の皆さん、地域の状況を駆け引きなくストレートにぶつけてこられる道内自治体の皆さん、まったくもって無理難題もにっこりと笑って持ち掛けてくる日本データサービス(株)の皆さん、黙ってサポートして下さる(株)サーベイリサーチセンター北海道事務所の皆さん、お会いする皆さん全てに特別な感謝を込めて。

時代の流れ、交通の動きは早いので、お互いに、一緒に成長しながら頑張っていきましょう！



「ゆるキャラ®グランプリ2013」第1位
佐野ブランドキャラクター「さのまる」仕掛け人です。すっかり古くなりましたが(苦笑)、「さのまる」は、未だにまちづくりのキーキャラクターです！

講義のおさらい: 持続可能な地域公共交通を進めるためには

- 交通システムから考えるのではなく、まちづくりの装置としてみる
- 利用者⇔運行事業者⇔支える人(行政)の構図を理解する
- 理屈(理想)ではなく、現実(現在進行形)で考える
- 固定概念にとらわれずに柔軟に
- 100点を目指さずに60点をを目指す